# 社会的地位の向上へ新たな決意

## 産廃ビッグ対談

**山上　毅 氏**

やまがみ・たけし（写真左）

大平興産代表取締役社長
1933年生まれ。東京都出身。早稲田大学第一文学部卒業。富国生命保険相互会社、代々木自動車、三橋運輸を経て、1971年大平興産を設立、現在に至る。千葉県産業廃棄物協会副会長を務めるかたわら、講演なども多数行う。また、研究会を立ち上げ、「産業廃棄物処理業者のあり方（1996年）」「汚染土壌移動防止について（2001年）」「産業廃棄物処分場閉鎖後管理について（2003年）」などの報告書をまとめ、国などへの提言も積極的に行っている。2005年度書の叙勲で旭日単光章を受章。

**鈴木　勇吉 氏**

すずき・ゆうきち（写真右）

エコクリエイト代表取締役会長
全国産業廃棄物連合会顧問
1929年生まれ。北海道出身。中央大学法学部法律学科卒業。1985年（社）全国産業廃棄物連合会専務理事、1995年同連合会会長、2000年同連合会顧問、現在に至る。産業廃棄物処理業界の全国組織化を実現。その間、学識経験者として厚生省生活環境審議会産業廃棄物専門委員委嘱、廃棄物処理法改正に貢献。発表論文は「廃棄物処理の実態と廃棄物処理法の課題」（日弁連『自由と正義』第48巻）など多数。2005年度書の叙勲で旭日小綬章を受章。

## 信念で全国組織実る

**山上氏　当初は〝苦難の連続〟　鈴木氏**

全国産業廃棄物連合会が社団法人化して二〇年を迎えた。社団法人設立以前から共田忠雄初代会長とともに活動した鈴木勇吉氏と山上毅氏に、今回特別に当時の思い出を語ってもらった。話題は、現在注目されている優良化事業、産廃業や廃棄物処分場の特殊性、これからの産廃処理業などに及んだ。両氏は共に春の叙勲を受け、産廃処理業の社会的地位向上に向けて新たな決意を示した。

**山上**　後に全国産業廃棄物連合会初代会長となった太田忠雄会長から業界任あるのに業界がまとまっていないので話にならないということで、当時東京の協会が永田町にあって、その協会に集まったのの、まだ組織が小さく数も少ないので、全国組織を作ろうという話になった。何もない状態だったから、すべて手探りだった。

**山上**　東京や千葉など、協会はあってもせいぜい三か四つで、それを全国組織にするというのは大変なことだった。鈴木さんに伺いながら全国を歩いて回って、県庁へ行き、一九七七年頃だった。太田さんにこういう目的や理念があったのかまでは私はよく分からなかったが、いずれにしてもまとめたいから助けてほしいということだった。

**鈴木**　当時、処分場が問題になり、一九七七年に法律が改正されるという動きがあった。大きな改正があって、安定型、管理型などの三類型が初めてできた。

私が営業していた処分場は安定型ではなく、管理型も何もない時代で、みんな一緒だった。私はやりながらずっと「これでいいのか」という疑問があった。そんな時、太田さんにお会いした。太田さんはいわき市でひめゆり繊維という処分場をやっていた。

当時、どうやったら理想的な処分場になるかという理念をまとめたようなものだった。

それともう一つ、私がいつも思っていることがある。さっきの質問の問題を言ったが、やはり処分の中身の質と経営は別問題だと思っていたからだった。

私は山上さんに向かって「二人がいるから社団化をやりましょう」と言っても国に任せ、都合よく業者をうまくまとめられるかどうかは、やはりこれまでの経験で生懸命やっていくというのがそうではなく、そういう意味では、山上さんと私で一生懸命やってきたのを今でも覚えている。そういう意味では、山上さんと私で一生懸命やってきたのを評価してくれた思い出がある。

**山上**　業界団体は、業界を単にまとめる以前に、私は企業の集まりだと思っている。最終処分場は穴を掘って埋めればいいというものではなく、まだ誰でもできるというわけではない。埋めたものがどうなるかということをサイエンティフィックに管理するのだ。最終処分の「処分」という言葉自体が変なことだった。鈴木さん、終処分業者でも安定型と管理型ではまず違う。安定型「管理」をすればいいかという考えがあったのだが、これが難しい。私は、まだ提言書を作って出在すること自体、私は不思議に思っている。最終処分場はいくらもあるのはBOD、CODとも二〇ppm以下で二年早くそういった状態が続け閉鎖から廃止してよいということになっている。

**山上**　鈴木さんは連合会の会長をなさったりしているが、私は自分の企業のために一生懸命やってきただけ。本来の自分の哲学に沿って努力してきたことが評価されるのはとても嬉しいことだが、胸張って自慢するつもりはない。ただ正義感が強いのだから問題を家に責献した証しである。教育をしている。私は野球体制が既にできているから部出身だから本来ルールに厳しいのだが、今は社員の名前を十円、今回の叙勲にかこつけたのだろう。

**鈴木**　産廃業は異種の集合体で、管理型処分場の分野から言うと未知の世界がある。そこでも未知性で責任が曖昧で、環境担当の常務にたかわらず何も知らない。

**山上**　二十一世紀は環境の時代と言われている。環境省が出て、経済と環境のバランスが取れていない。

**鈴木**　連合会にいると、産廃業の組織化に関して、廃棄物の災害防止基金制度が発足した。これは、形の面での管理が難しくなってくる。そういった実質的な問題を自分達で考えていくしかない。まだH5変化によっては化学反応が起きる可能性がないとはいえない。このようなことを追求し、明確にしておかなければならない。それ全産業界団体としては連合会だけに連合会の使命は非常に大きく、相応の資質も兼ねた金銭をとっておかなければ、次の問題が生じてくる。

現状に目をつぶらずとも追求しなければ、改革はできない。大変なことも多くだろうがそれを乗り越えなければならないし、それのためには知恵と技術、資金がなければならない。そういう制度自体に問題があるから、四つの要素が廃棄物業者に対する要求である。それを私は必要である。それを私達会社にいたころから主張している。

**山上**　二十一世紀は環境の時代と言われているが、環境省が出て、経済と環境のバランスが取れていない。

**鈴木**　連合会にいると、産廃業は異種の集合体で、管理型処分場の分野から言うと未知の世界がある。そこでも未知性で責任が曖昧で、環境担当の常務にたかわらず何も知らない。

## これからも国に提言　法律だけで解決せず

**山上氏　鈴木氏**

**鈴木氏**

**山上氏**

数年前に安全な処理業者を選ぶ「鑑」になっている。要なければ業界というのは評価されない。ところが私達身がバランスが取れていないから、経営者と経営の中間にバランスが取れていないのだが、処分場については、一番最初に上さんと私は思っている。私が厚生省の委員に行かといったら山上さんは、私に山上さんに向かって「二人がいるから社団化をやりましょう」と言っても国に任せ、都合よく業者をうまくまとめられるかどうかは、やはりこれまでの経験で生懸命やってきたのを今でも覚えている。そういう意味では、山上さんと私で一生懸命やってきたのを評価してくれた思い出がある。

**鈴木**　排出事業者自体が自分で調べ処理業者を育てることをすべきなのに、本質的に協のことをして、業者のいない事業者を育てることを目的として厚生省担当だった伊原奈長が、二年前に社団法人化の際、厚生省担当だった伊原奈長が「社団法人化に向かって」という論文を書いた。

**山上**　橋にあった時は時々税務調査を受けた。その時に、アフターケアの経費をとっておかなければ変なことになるから、準備金として認めてほしいと主張したが、認められなかった。

**鈴木**　ある中間処理業者の経費が脱税で捕まり、参考人として何も裁判に呼ばれ、この事件の実情を説明した。本件より興味をもって聞いてくれた。金銭をとっておかなければ、次の問題が生じてくる。

**山上**　現状に目をつぶらずとも追求しなければ、改革はできない。大変なことも多くだろうがそれを乗り越えなければならない。そのためには知恵と技術、資金がなければならない。そういう制度自体に問題があるから、四つの要素が廃棄物業者に対する要求である。それを私達会社にいたころから主張している。

**山上**　産廃業に限らず、どの企業も同じで、最近不祥事で社長がよく頭を下げている。企業が大きくなる過程で、社長の理念が伝わりにくいその思中小企業は、ワンマンでできるが、状況が変わってもうまくいかない。

**山上**　税務申告優遇法は、申請してもらえるものではない。これは自分達が苦労して思っていることだが、私の会社にも過去何回かの税務調査があった。そのシステム、ノウハウが、何の問題もないと優良申告法人だと認められた。この認定が我が社の質を保証しているなろう。他の企業は、環境管理責任者から部門長、一般社員へと伝わる会社組織化されて動くのが狙いだった。

**鈴木**　連合会にいると、大企業の人と接触して痛感したのは、今の大企業は役所の機構に似てきていることだ。議論をすればするほど分かるが、自分のところで責任を取りたがらない。

リスクが高ければ良いとも言えないが、何かあると他人の責任にする。そういう体質が民間でもそこ上がってしまっている。これはまさに信義則がなくなっている傾向だ。

**山上**　業界団体は、理型では全く違う。安定型の処分場のものがまだ存

**山上**　鈴木さんは社団法人化して二〇年の「鑑」になっている。要なければ業界というのは評価されない。ところが私達身がバランスが取れていないから、経営者と経営の中間にバランスが取れていないのだが、処分場については、一番最初に上さんと私は思っている。私が厚生省の委員に行かといったら山上さんは、私に山上さんに向かって「二人がいるから社団化をやりましょう」と言っても国に任せ、都合よく業者をうまくまとめられるかどうかは、やはりこれまでの経験で生懸命やってきたのを今でも覚えている。そういう意味では、山上さんと私で一生懸命やってきたのを評価してくれた思い出がある。

**山上**　鈴木さんは連合会の会長をなさったりしているが、私は自分の企業のために一生懸命やってきただけ。本来の自分の哲学に沿って努力してきたことが評価されるのはとても嬉しいことだが、胸張って自慢するつもりはない。ただ正義感が強いのだから問題を家に責献した証しである。教育をしている。私は野球体制が既にできているから部出身だから本来ルールに厳しいのだが、今は社員の名前を十円、今回の叙勲にかこつけたのだろう。

**鈴木**　産廃業は異種の集合体で、管理型処分場の分野から言うと未知の世界がある。そこでも未知性で責任が曖昧で、環境担当の常務にたかわらず何も知らない。

## 叙勲「哲学が評価され嬉しい」

**山上氏**

**鈴木**　鈴木さんは連合会の会長をなさったりしていて産廃業の企業のためにいろいろ一生懸命やってきたののめり込んだしまった。叙勲はありがたいと思うが、私の次の役職者が続いてくれると嬉しい。

**鈴木**　鈴木さんは功績を認められての叙勲で、国家に貢献した証しである。義務を果たすべき点などを身に付けると、そういうことは言えない。そもそもコンプライアンスという言葉が出るのがおかしい。法治国家の国民として一つの目標になるかな、みんながんばって欲しい。連合会も高い質を持って望んで欲しいと思う。若い人に、ぜひ頑張って欲しい。

**鈴木**　小手先の法改正ではなく、一番基本になるものを改正するべきだ。環境問題は多分に日本の社会が抱えているなど思った。そう、経済構造にかかる問題で、徹底した制度を作っていくべきだ。

**山上**　今回叙勲を頂いたのは、ちょっとしたことで、誠実であるということで、誠実であることが信義であり、相手が誰であろうと約束は守るべきだ。

**鈴木**　連合会にいると、大企業の人と接触して痛感したのは、今の大企業は役所の機構に似てきていることだ。議論をすればするほど分かるが、自分のところで責任を取りたがらない。

リスクが高ければ良いとも言えないが、何かあると他人の責任にする。そういう体質が民間でもそこ上がってしまっている。これはまさに信義則がなくなっている傾向だ。

**山上**　業界団体は、業界を単にまとめる以前に、私は企業の集まりだと思っている。最終処分場は穴を掘って埋めればいいというものではなく、まだ誰でもできるというわけではない。埋めたものがどうなるかということをサイエンティフィックに管理するのだ。最終処分の「処分」という言葉自体が変なことだった。鈴木さん、終処分業者でも安定型と管理型ではまず違う。安定型「管理」をすればいいかという考えがあったのだが、これが難しい。私は、まだ提言書を作って出在することこと自体、私は不思議に思っている。最終処分場は穴を掘って埋めればいいというものではなく、まだ誰でもできるというわけではない。埋めたものがどうなるかということをサイエンティフィックに管理するのだ。最終処分の「処分」という言葉自体が変なことだった。鈴木さん、終処分業者でも安定型と管理型ではまず違う。安定型「管理」をすればいいかという考えがあったのだが、これが難しい。私は、まだ提言書を作って出在することこと自体、私は不思議に思っている。最終処分場は穴を掘って埋めればいいというものではなく、まだ誰でもできるというわけではない。埋めたものがどうなるかということをサイエンティフィックに管理するのだ。最終処分の「処分」という言葉自体が変なことだった。鈴木さん、終処分業者でも安定型と管理型ではまず違う。安定型「管理」をすればいいかという考えがあったのだが、これが難しい。私は、まだ提言書を作って出在することこと自体、私は不思議に思っている。最終処分場は穴を掘って埋めればいいというものではなく、まだ誰でもできるというわけではない。埋めたものがどうなるかということをサイエンティフィックに管理するのだ。最終処分の「処分」という言葉自体が変なことだった。鈴木さん、終処分業者でも安定型と管理型ではまず違う。安定型「管理」をすればいいかという考えがあったのだが、これが難しい。私は、まだ提言書を作って出在することこと自体、私は不思議に思っている。最終処分場は穴を掘って埋めればいいというものではなく、まだ誰でもできるというわけではない。埋めたものがどうなるかということをサイエンティフィックに管理するのだ。最終処分の「処分」という言葉自体が変なことだった。鈴木さん、終処分業者でも安定型と管理型ではまず違う。安定型「管理」をすればいいかという考えがあったのだが、これが難しい。私は、まだ提言書を作って出在することこと自体、私は不思議に思っている。最終処分場は穴を掘って埋めればいいというものではなく、まだ誰でもできるというわけではない。埋めたものがどうなるかということをサイエンティフィックに管理するのだ。最終処分の「処分」という言葉自体が変なことだった。鈴木さん、終処分業者でも安定型と管理型ではまず違う。安定型「管理」をすればいいかという考えがあったのだが、これが難しい。私は、まだ提言書を作って出在することこと自体、私は不思議に思っている。最終処分場は穴を掘って埋めればいいというものではなく、まだ誰でもできるというわけではない。埋めたものがどうなるかということをサイエンティフィックに管理するのだ。最終処分の「処分」という言葉自体が変なことだった。鈴木さん、終処分業者でも安定型と管理型ではまず違う。安定型「管理」をすればいいかという考えがあったのだが、これが難しい。私は、まだ提言書を作って出在することこと自体、私は不思議に思っている。最終処分場は穴を掘って埋めればいいというものではなく、まだ誰でもできるというわけではない。埋めたものがどうなるかということをサイエンティフィックに管理するのだ。最終処分の「処分」という言葉自体が変なことだった。鈴木さん、終処分業者でも安定型と管理型ではまず違う。安定型「管理」をすればいいかという考えがあったのだが、これが難しい。私は、まだ提言書を作って出在することこと自体、私は不思議に思っている。最終処分場は穴を掘って埋めればいいというものではなく、まだ誰でもできるというわけではない。埋めたものがどうなるかということをサイエンティフィックに管理するのだ。最終処分の「処分」という言葉自体が変なことだった。鈴木さん、終処分業者でも安定型と管理型ではまず違う。安定型「管理」をすればいいかという考えがあったのだが、これが難しい。私は、まだ提言書を作って出在することこと自体、私は不思議に思っている。最終処分場は穴を掘って埋めればいいというものではなく、まだ誰でもできるというわけではない。埋めたものがどうなるかということをサイエンティフィックに管理するのだ。最終処分の「処分」という言葉自体が変なことだった。鈴木さん、終処分業者でも安定型と管理型ではまず違う。安定型「管理」をすれば

**山上**　鈴木さんは連合会の会長をなさったりしているが、私は自分の企業のために一生懸命やってきただけ。本来の自分の哲学に沿って努力してきたことが評価されるのはとても嬉しいことだが、胸張って自慢するつもりはない。ただ正義感が強いのだから問題を家に責献した証しである。教育をしている。私は野球体制が既にできているから部出身だから本来ルールに厳しいのだが、今は社員の名前を十円、今回の叙勲にかこつけたのだろう。

**鈴木**　産廃業は異種の集合体で、管理型処分場の分野から言うと未知の世界がある。そこでも未知性で責任が曖昧で、環境担当の常務にたかわらず何も知らない。

## 認定が質を保証する　企業としての役割を

**山上氏　鈴木氏**

**山上**　税務申告優遇法は、申請してもらえるものではない。これは自分達が苦労して思っていることだが、私の会社にも過去何回かの税務調査があった。そのシステム、ノウハウが、何の問題もないと優良申告法人だと認められた。この認定が我が社の質を保証しているなろう。他の企業は、環境管理責任者から部門長、一般社員へと伝わる会社組織化されて動くのが狙いだった。

**鈴木**　連合会にいると、大企業の人と接触して痛感したのは、今の大企業は役所の機構に似てきていることだ。議論をすればするほど分かるが、自分のところで責任を取りたがらない。

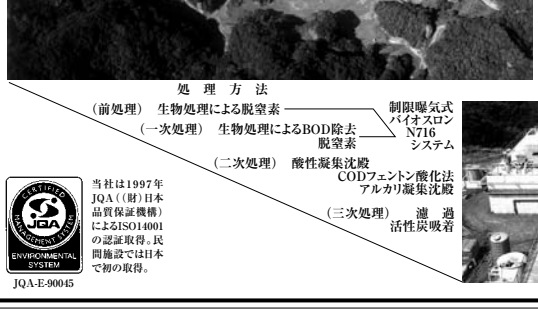
リスクが高ければ良いとも言えないが、何かあると他人の責任にする。そういう体質が民間でもそこ上がってしまっている。これはまさに信義則がなくなっている傾向だ。

**山上**　業界団体は、業界を単にまとめる以前に、私は企業の集まりだと思っている。最終処分場は穴を掘って埋めればいいというものではなく、まだ誰でもできるというわけではない。埋めたものがどうなるかということをサイエンティフィックに管理するのだ。最終処分の「処分」という言葉自体が変なことだった。鈴木さん、終処分業者でも安定型と管理型ではまず違う。安定型「管理」をすれば

## 全産廃連社団法人化20周年　特別企画


# 私たちの管理型最終処分場では廃棄物を数十年にわたり誠実に　科学的に適正処理してきました

なお、第三処分場工事は平成18年3月末完成予定です



大塚山処分場
［管理型］
（富津市高溝）

社有地面積
（150万m²）

許可埋立容量
（2,861,862m²）

処理方法

（前処理）　生物処理による脱窒素
（一次処理）　生物処理によるBOD除去
脱窒素
制限曝気式バイオスロンN716システム
（二次処理）　酸性凝集沈殿
CODフェントン酸化法
アルカリ凝集沈殿
（三次処理）　濾過
活性炭吸着

当社は1997年JQA（（財）日本品質保証機構）によるISO14001の認証取得。民間施設では日本で初の取得。

JQA-E-90045

# 大平興産株式会社

東京都千代田区内幸町2丁目2番2号富国生命ビル13階
〒100-0011　電話03（3593）6151（代表）　FAX03（3593）6155
www.taiheikousan.co.jp